

# みんながつながる 地域学校協働活動便り NO.10

青森県教育庁生涯学習課地域連携推進グループ TEL017-734-9890 E-mail: chikuko\_kudo@mx.pref.aomori.jp  
統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員 工藤知久子

## CSマイスターフッシュ型派遣事業 八戸市教育委員会

会場：八戸市総合教育センター



10月11日、講師に文科省CSマイスターの秋田県由利本荘市立西目中学校の前校長 高野睦氏をお招きし、「未来の創り手を育てる地域と学校の連携・協働～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の活用を通して～」をテーマに研修会を開催しました。齋藤信哉教育長を始め、教育委員、教育委員会職員35名が出席しました。

平成20年度に八戸市は、子どもたちに確かな学びと豊かな育ちを保障することを目標に、地域密着型教育推進事業を立ち上げました。平成25年度までに全ての学校又は中学校区に地域学校連携協議会を設置し、平成26年度から全小・中学校で地域密着型教育を推進するコーディネーターを配置しています。

今回の研修会では、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて目指すべき教育の在り方は、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るために、学校・地域・家庭が組織的・継続的に連携協働していくことが重要であること、その体制がコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進であることなどについて講話していただきました。

また、模擬熟議では「八戸の未来を担う子供たちのためにできること」について、子どもたちに伝えていきたいもの、八戸市教育委員会としてできることについて意見交換が活発に行われ、参加した八戸市教育委員会職員の前向きな姿勢が伺える研修会でした。



## CSマイスターフッシュ型派遣事業 鶴田町教育委員会

会場：鶴田町国際交流会館

10月24日、CSマイスターの高野睦氏を講師にお招きし、「地域とともにある学校づくり～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の活用を通して～」と「熟議の意義とそのイメージ～体験してみよう！模擬熟議」の研修会を開催しました。山本真樹子教育長を始め、学校運営協議会委員25名がコミュニティ・スクールについて学びました。

鶴田町は令和2年度から地域学校協働活動がスタートし、推進員は町の任用職員として採用され、翌年には本部が整備されました。地域との協働によるりんごや大根、ジャガイモの栽培や郷土芸能の伝承など、立ち上げから推進員の活動が実を結びとともに、地域の方々の献身的な協力によって地域学校協働活動が根付いているところです。さらに、令和5年8月には、学校運営協議会が設置されました。

高野氏からは、鶴田町が目指す「若い世代から選ばれるまちづくり」に大人は何ができるのか、「社会に開かれた教育課程」のためにコミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進していくこと、そして、地域と学校が連携・協働していくことの重要性についてご講義いただきました。



## CSマイスターフレッシュ型派遣事業 藤崎町教育委員会

会場：藤崎町常磐生涯学習文化会館



前日の鶴田町に引き続き、10月25日、CSマイスターの高野睦氏を講師にお招きし、「地域とともにある学校づくり～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の活用を通して～」と模擬熟議「藤崎の未来を担う子どもたちのためにできること」の研修会を開催しました。羽賀義易教育長を始め、各小中学校の学校評議員10名が出席しました。

藤崎町は、子育て世代の人口が増加し、児童生徒数も増えている町です。昨年度は、CSマイスターの安齋宏之氏が校長会と教育委員会職員を対象に2回研修会を実施しました。

講師の高野氏からは、予測困難な時代（VUCA時代）を生きる子どもたちが藤崎町の目指す「みんなで築く希望に満ち、活力があふれるまち ふじさき」の実現のために、地域と学校が連携・協働していくことが重要であるというお話がありました。

また、模擬熟議では、同じ地区のグループに分かれて、地域のまとまりの必要性和郷土愛について協議しました。

## 学区まなびい講座 運営担当者研修会

会場：弘前文化センター

10月12日、弘前市教育委員会中央公民館主催の「令和5年度学区まなびい講座運営担当者研修会」が弘前市文化センターで開催され、各学区まなびい講座運営委員長や関係小学校長等、42名が出席しました。

当日は、弘前市公民館活動等活性化アドバイザーである野口拓郎氏が出席し、事例発表に対し、助言されていました。また、県生涯学習課担当者から「地域学校協働活動に関する青森県の現状について」、統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員から「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進について」を説明しました。

事例発表では、桔梗野小学校 森谷卓教頭先生、大成小学校 斉藤雅子教頭先生から各学校の活動事例が発表されました。

桔梗野地区生涯学習推進連絡協議会では、29名の委員が活動しています。令和5年度から生涯学習まなびいも学校運営協議会を主軸にした地域学校協働活動の連携協力体制になり、学校運営協議会委員がコーディネーターとなりました。「頼る、頼られる関係づくり」から、より「連携協働する体制」が整いつつあります。今後は「地域を頼る学校、地域から頼られる学校」を目指し、大人が共に歩む姿勢が、子どもたちの笑顔と「学校が楽しい」「地域が好き」の声につながっていくことと思われれます。

一方の大成学区まなびい講座運営委員会では、23名の委員が活動しています。今年度のテーマは「地域との絆をつむぎ直す年」として、年間活動サイクルを見直し、スケジュールをコンパクトにして、子どもたちのために事業を実施しているとのこと。

※ 学区まなびい講座は、市街地における小学校区（11学区）を単位として、地域住民が主体的に講座の企画や実践に取り組み、参加者とともに様々な活動を通じて学び合うことで、よりよい地域づくりと人づくりを目指している講座です。昭和52年から市街地の公民館活動を活発にするための施策として取り組んできた弘前市特有の事業です。

## CSマイスターフッシュ型派遣事業 コミュニティ・スクール研修会

会場：五所川原合同庁舎

11月15日、西北管内の県立学校教職員を対象に、地域と学校が連携・協働する意義や校内で中心となる教職員の役割、留意点について学ぶ研修会を開催しました。文部科学省CSマイスターで北海道科学大学教授の出口寿久氏を講師に、「地域とともにある学校づくり～これからの高校等のコミュニティ・スクール～」をテーマに、西北管内の高校・特別支援学校から、校長先生や教頭先生等16名が参加しました。

出口氏からは、高校におけるコミュニティ・スクールの必要性、コミュニティ・スクールの仕組みと現状、成果と課題について先進事例も含めてご講義いただきました。

その後、コミュニティ・スクール導入に関して参加者からは、「学校運営協議会の委員の選び方」「学校評議員と学校運営協議会委員との違いとは」「校長先生の負担は？」「教頭先生が忙しいのでは？」「地域連携はできているが、地域人材の活用の仕方をどうすればいいのか？」など、忌憚のない意見や質問が出されましたが、一つ一つ出口氏からご助言をいただき、不安な部分を払拭できた研修会となりました。



## 青森市教育委員会 地域学校協働活動事務連絡会議

会場：青森市教育研修センター

11月29日、青森市は、市内小中学校の教頭先生と推進員、サポーターを対象に地域学校協働活動に係る事務連絡会議を開催し、80名が参加しました。

青森市は、平成20年度から学校支援地域本部、令和元年度から中学校区に学校運営協議会を順次設置し（現在12中学校区）、令和2年度から地域学校協働本部が整備され全小中学校で実施しています。

今回の会議は、統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員から「学校運営協議会と地域学校協働活動の更なる促進をめざして」をテーマに、活動事例や共通様式の使用による継続的な体制づくり、地域との連携、事業促進のポイントについて講話がありました。

また、中学校区毎のグループワークでは、課題と解決後のやってみたい活動について話し合いました。「こんなに教頭先生と話したのは初めて」「同じ中学校区の教頭先生と話す機会がもててよかった」という感想を聞くことができました。一方で、「地域とのつながり方が分からない」「コーディネートする後継者不足」等の感想もあったことから、県と市が連携し、丁寧に伴走支援していくことが大事だと感じました。



12月8日、弘前市立松原小学校から依頼があり、学校運営協議会に出席してきました。

授業参観後、学校評議員と学校運営協議会委員の違い、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な体制についてお話し、校長先生、教頭先生、教務主任、委員の方々と一緒に熟議をしました。初めての熟議は難しい様子でしたが、段々付箋に書くことにも慣れ、読み聞かせ活動をしている委員は「10年以上前から学校にお願いしたいと思っていただけなのよ」と学校への要望を伝えていました。それに対して校長先生もしっかりと受け止め、来年度の活動につなげていきたいし、何でも言える関係性が大事と答えていらっしゃいました。

今年も、これまで訪問したことのない町や学校、地域の皆さまにお会いできて、活動に対する情熱や子どもたちへの愛情あふれる姿勢に感激し、とても新鮮な気持ちで過ごせたと思っています。ご相談やご質問などございましたら、いつでもお声がけください。来年も新たな出会いを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

